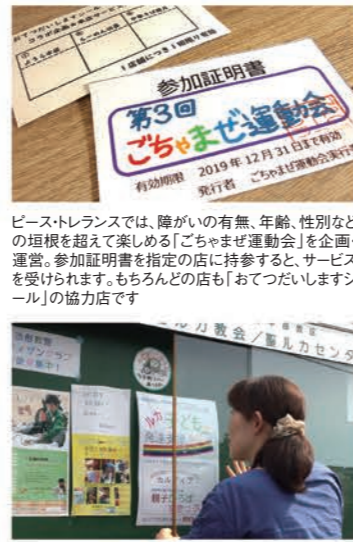




協力スポットがひと目でわかるようにマップを作成



教会もシールの貼付を承諾



押富さん(左)と、最初にシールを貼ってくれたラーメン店「ようら本店」の店主梶島さん(右)

誰もが楽しく穏やかな暮らしを望んでいます。
そんな思いの手助けにこれからも力を発揮したいです

「車椅子を使う人が飲食店などを訪れた時、ちょっと手伝ってもらえたら店内に入れる場合があります。それでも『店の迷惑になるから...』と遠慮してしまうことがあります。そんな私たちの思いとは反対に店には手伝う意思を持つ方が多くいました。ピース・トレランスのメンバーは双方の思いが通じ合っていない現実注目。店側の手伝う意思を見える化したら、障がい者は申し出がしやすくなるのではないかと、シールの導入を思いつきます。街で支援や配慮を必要とする人が、それ知らせるために身につける「ヘルプマーク」とは逆の発想です。まずは賛同を得られる店舗をメンバーでリストアップ。その後、交渉が始まりました。「断られることは、ほとんどないです。皆さん温かな気持ちで受け入れてくれました」と押富さんは笑顔を見せます。

最初にシールを貼ったのは、ラーメンの「ようら本店」。店主の梶島剛さんは、シールに「難聴ですが聞くのは大好き。お気軽に何でも聞いてね!」とメッセージを添えました。また別のラーメン店では、親が子どもに食べさせている間に麺が伸びてし

題について当事者目線での支援や啓発に取り組んできました。そのひとつに「おてつだいしますシール」プロジェクトがあります。

「もともと障がい者の支援を想定したプロジェクトでしたが、高齢者や妊婦、子連れ、けが人など、対象の幅を広げました。店側に伝えやすく、ちゅうちょしていた外出の促進につながっていくはず」と自信のぞかせます。

information
NPO法人「ピース・トレランス」
HP / <https://www.facebook.com/peace.tolerance2016/>
「おてつだいしますシール」プロジェクトは <https://www.facebook.com/otetsudaisimasu.s.p/>
メール / peace.tolerance2016@gmail.com



活動の記録をまとめたファイル。プロジェクトの趣旨と内容のほか、協力店の情報もこまかく記載されています

プロジェクトに協力してくれたスポットの情報は、Facebookにアップしているので、ぜひ目を通してください



NPO法人ピース・トレランス 代表 押富俊恵さん



巻頭特集
NPO法人「ピース・トレランス」
「おてつだいしますシール」プロジェクト

支援を求める人々の支えに

困りごとがある人に支援の手を差し伸べるNPO法人「ピース・トレランス」。代表理事の押富俊恵さんとメンバーが始めた「おてつだいしますシール」プロジェクトが、市内で注目されています。



市のイメージキャラクターの「あさびー」が、車椅子を押して支援をPR。下部の空いたスペースには、各店舗からのメッセージが書かれています

尾張旭市内で暮らす押富俊恵さんは身体に障がいがあり、車椅子を利用して生活しています。専門学校で作業療法士の資格を取得した後、リハビリ病院に勤務していましたが、突如全身の筋肉が弱り、疲労しやすくなる難病「重症筋無力症」を患いました。入院生活は2年半に及びました。次第に食べ物をうまく飲み込むことができなくなり、気管を切開。現在は人工呼吸器をつけて、介護ヘルパーに日常の世話を依頼しています。押富さんはかつて、ヘルパーサービスの時間外、両親に生活の面倒を見てもらっていました。しかし、その両親も同時に入院生活を余儀なくされます。サービスの時間延長を行政に申請しましたが、前例がなかったため受け入れができません。自身の生活を成り立たせるため粘り強く交渉。最終的に延長が認められました。「この体験をきっかけに、障がい者だけでなく社会的弱者のために健常者では気づくことができない支援をしたい」との思いが芽生え、NPO法人を立ち上げました」と押富さんは話します。そして2015年12月に「ピース・トレランス」を結成。翌年10月、NPO法人登記されました。押富さんの由来は「平和」と「寛容」。押富さんが代表理事を務め、地域の福祉に関わる専門職らで構成されます。設立以来、障害福祉や地域福祉の問